

金沢大学附属図書館とペリー『日本遠征記』

幕末・明治期古写真等資料展に寄せて

金沢大学附属図書館長 橋本哲哉

この度の「幕末・明治期古写真等資料展」開催に際して、金沢大学附属図書館としてどのような企画を併置するか、あらためて館内所蔵品を点検する機会をもちました。その結果、いわゆる『ペリー提督日本遠征記』初版本が図書館第1の売り筋である、と考えて展示させていただきました。

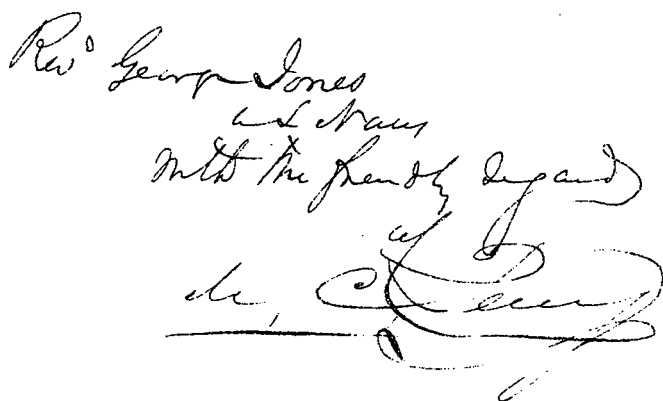
やや大げさに言うならば、幕末の歴史とのかかわりでペリーの名前は、日本人ならば誰もが承知しているでしょう。そして少し歴史好きの方ならば、岩波文庫の中に4冊の『日本遠征記』翻訳があるのをご存知だと思います。しかし、英語版の原本をご覧になったり、触れた経験をおもちの方は、ごく少数ではないでしょうか。図書館所蔵本は、その初版であること以外にいくつか大きな特徴をもっています。そのことを中心に少しご紹介したいと思います。

今日本で最も手にしやすいのは岩波文庫版ですが、それは第1巻の全訳（図版もすべて入っている）で、展示をご覧になるとおわかりのように原著では他にもう2巻が添えられています。ひとつは日本までの遠征途中の各地の博物学的調査記録、もう1巻は航海中の天体（星座等）の観測記録です。幕末の研究者である加藤栄一氏は、『日本遠征記』の原著はフォリオ（元老院）版とも言うべき全4巻本が正式のもので、別にアプルトン版と称する普及版もあるとされています。しかし、通常は第4巻の「水路誌」を除く3巻のセットで語られるようです（岩波文庫版玉城肇解説、なお原訳版は1935年弘文荘発行）。金沢大学のものはフォリオ版で、第4巻を欠いていて残念ではありますが、しかし貴重本としての価値をいささかも減じていないといえましょう。なお、原著の正式なタイトルは次に掲示しましたが、直訳すると「中国海域及び日本へのアメリカ艦隊遠征記」となります。つい最近、この全4巻の完全翻訳本が刊行され（1997年10月、栄光教育文化研究所）、加藤祐三氏（『黒船前後の世界』の著者）による立派な解説が施されています。あわせて展示しておきましたが、この全巻全訳は日本初の仕事です。

さてこのフォリオ版の表紙には、編者ともいうべき肩書きで、フランス・M・ホーク

スの名前があります。ニューヨーク・カンタベリー教会の牧師さんで、ペリーは公式記録としてこの『日本遠征記』をより充実した内容・叙述とするために依頼したといわれています（サミュエル・モリソン『ペリーと日本』原書房、なおこの本はペリーの伝記としての役割も果たしている）。しかし、ペリーは遠征の当初から自身で膨大な記録を残し、また遠征参加者に対して帰国後勝手な「遠征記」を執筆したり、発表することを禁じました（S・M・ウィリアムズ『ペリー日本遠征随記』）。ホークス師は、ペリーの残した遠征記録の正式な整理者であったといってもよいでしょう。

ところで、金沢大学本にはもっと重要な情報が載せられています。まず第1に特筆されなければならないのは、第1巻表紙にペリー直筆のサインがあることです。ジョージ・ジョーンズ牧師に贈呈されていますが、ジョーンズ師は遠征に同行した艦隊付きの牧師で、天体観測（第3巻）も担当しました。アメリカ政府によって出版された『日本遠征記』を、ペリーは1千部与えられたようですが、その1部をジョーンズ師に贈ったのでしょう。その意味でも大変貴重な1冊が金沢大学にあるのです。



<ペリーのサイン>

もうひとつ重要な情報は、第1巻表紙の背側に「裏張文書」とも言うべき資料が付いていることです。これに関しては若干の論稿がありますが（山森専吉稿「ペリー署名『日本遠征記』裏張文書の研究」）、それを手がかりに以下少しだけご紹介します。

それは古い新聞の切り張りであることは間違いありません。小さい活字で、かつ褪色しているため判読が困難な箇所もありますが、ハリス（ペリーの条約締結後、日本に最初に乗り込んだアメリカ総領事）がペリーに宛てた手紙で、1857年10月27日の執筆日付けを確認できます。内容は、ハリスが日本へ来たいきさつを述べた後、ペリーから贈られた『日本遠征記』を読み、自分の日本観とを比較し、今後の日本側との交渉の行く末などにも言及しています。ハリスも『日本滞在記』（岩波文庫）を残していますが、それとも関連して非常に興味深い資料といえましょう。

しかしながらいつ、なぜ、誰が、何新聞から切り抜いたのか、かんじんのことはほとんどわかっていません。そうしたことを追っかけていけば、この『日本遠征記』のルーツ探

しになることは間違いないでしょう。

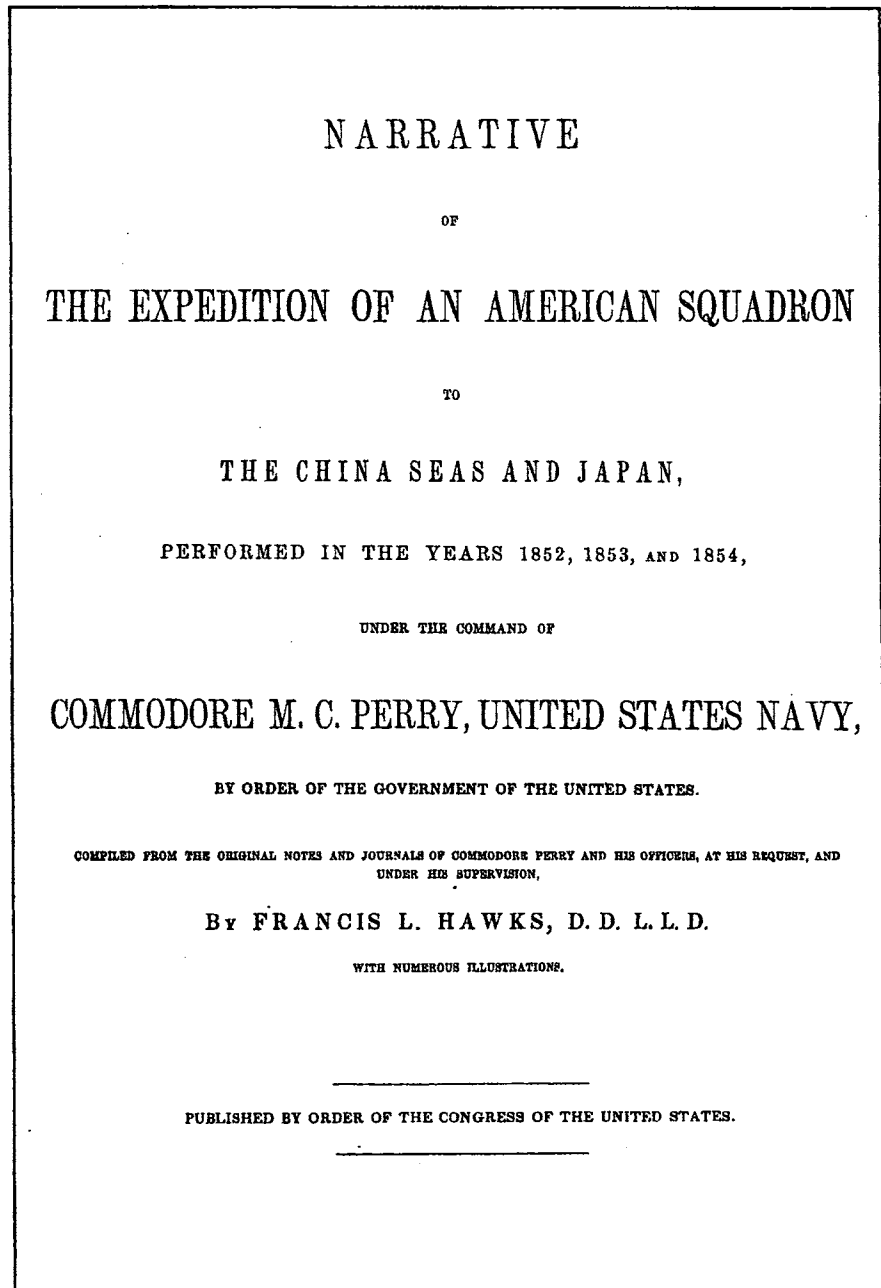
『日本遠征記』全巻は、1857年12月末の押し迫った時に完成を見ました。そしてその2か月後にペリーはリュウマチを悪くし、心臓発作で63歳の生涯を閉じました。今われわれは、『日本遠征記』140周年のまさに記念の時、この本に接している訳です。ペリーを通して幕末・明治維新を一時振り返るのも、何かの奇縁であろうかと思えます。じっくりとご鑑賞下さい。

こうした大切な資料『日本遠征記』は、三森良二郎氏（加賀市出身）がアメリカ滞在中偶然に古書店で発見されたと伺っています。昭和41年、金沢大学附属図書館にご寄贈いただいたのですが、最後になりましたが、あらためて三森氏のご好意に御礼申し述べます。

『日本遠征記』表紙

<追記>

上述中に掲示した文献は、『ペリーと日本』（石川県立図書館蔵）以外はすべて金沢大学附属図書館・金沢大学に所蔵されていますので、ご利用下さい。なお、石川県立図書館にはこの他にもペリーに関する一般書が数多く所蔵されています。



金沢大学附属図書館所蔵展示資料リスト

ペリー提督自筆署名入り「日本遠征記」

Narrative of the Expedition of an American Squadron to
the China Seas and Japan...

1856.3 Vols.

「米国使節来港之図」

彩色 写 一枚 59cm×106cm (用和堂文庫)

「琉球人行列附〔天保三癸辰年〕」

木版 色刷り 一枚 25.5cm×101cm (用和堂文庫)

幕末・明治期古写真等資料展
忘れられた日本の風景、風俗

期間／平成9年11月25日(火)～平成9年12月2日(火)
午前9時～午後4時30分

会場／石川県社会教育会館

主催／国立大学図書館協議会 金沢大学附属図書館

共催／石川県立図書館 石川県立社会教育センター

企画・資料提供／長崎大学附属図書館